

の正意ありはあつまいかと敬しんべり。

後同此の意あり。

以同の意を以て。後同此の辭部は最初より元來より
七不、あつる對の能く見へたるが、今更四眼を
とらつて今口引をせんとし困つた様様あり。今之と
二、同の意の源は、南支那の傳説より有る一
之が、傳説より、未だ終に報告し、同の意の
何事能くせしやと口引の意あり。

いふは、六次

日本電氣株式會社下級社員團伊萬屋會社行邊改

善い面を提出す。

日本電氣株式會社日給社員(三四人)の組織を萬屋會
(二七七)員は七月二十四日午後六時廿五分、社内前所一、指
うが、於て相談を困難し、社員總會に於て不重なる
後日本電氣株式會社、た、如き、西支那の事を論じ
し。

嘆願書

一、現在支給されたる給金米價神給金、此の如き
(下)を以て給金として支給すること
二、前項西支の支給に尙其の二割を加算し、是を天給
す。